

事例1 鈴木有機農園（宮城県仙台市）

鈴木有機農園の鈴木英俊さんは平成21年から欠かさずブログの更新を行い、食と農に関する情報を発信しています。鈴木さんは20年近く前から健康と美味しさにこだわり、EMを活用してお米や野菜作りを行ってきました。平成23年3月11日、海岸から約2.5kmの鈴木さんの水田は津波の被害を受け、あたり一面へドロ混じりのゴミが散乱していました。絶望的な被害の中、井戸を掘り、EMを使って見事な稲を育てることに成功しました。震災から2年半、その時の井戸は「絆の井戸」として建屋を作り保存されることになりました。



平成25年9月14日 石碑除幕式
井戸建屋お披露目式での鈴木英俊さん



絆の井戸建屋の内部 壁面には震災後からの収穫に至った経緯などが記されている

震災以後の平成23年3月からその年の収穫までの鈴木さんの書き込みを抜粋してご紹介します。

鈴木有機農園ブログ <http://suzuki-yuukinouen.blog.ocn.ne.jp/blog/>

○平成23年3月20日 近況報告

暫く振りです。鈴木有機農園です。

津波で甚大な被害を受けました。幸いにも家屋の被害はありましたが住むのには影響なく過ごせます。人的な被害が無かったのが何よりでした。

我家の田圃に津波が・・・東に新興住宅が有ったため、被害が軽減されました。特別大きな車とか、防風林の松の木等が入ってこなかったのです。



津波の様子

昔、津波の被害に会われた方で、水田を復興させた経験のある方がありましたら、ご教授お願いいたします。塩害の影響が皆目わかりません。さしあたってのご報告です。お得意様交通手段が通じましたら送られますので、お電話下さい。

○平成 23 年 3 月 25 日 「あきらめましょう」と「再生の出発」

こんばんわ 鈴木有機農園です。

今日やっと、我家より 1 km ほど離れた田圃を見て回りました。

この田圃は、他より 6 年契約で借りている水田です。車や家屋の残骸、防風林の松の木等で田圃とは見えません。この地に 1 ha の水田を耕作していましたが、残念ながら放棄するしか有りません。この田圃は諦めました。

法人化を進めていた矢先の津波災害でしたので、今後の取組等を実行組合長と話し合いました。集落の周りの水田には、海水が入りましたがえぐられた所はごく一部でしたので、駄目もとを覚悟で作付け出来るという事で耕作する事にしました。集落でも博打のようなものですから、強制せずに参加者を募ります。これからが農家魂の見せ所です。各方面から激励と、期待を掛けて頂いています。微生物農法で再生できることを証明して見せますので、ご期待下さい。後々後悔しないように・・・。



被害の大きな水田



50cm ほど堆積したゴミ

○平成 23 年 4 月 17 日 悔しい思いで水稲のタネ播き

こんばんわ 鈴木有機農園です。

今日はいつもより一週間遅れの水稲のタネ播きでした。各方面に田圃への水を引くをお願いをしたり、埒の明かない話の中で、最後まで頑張っ



播種後の様子

○平成 23 年 5 月 9 日 井戸掘り開始

こんばんわ 鈴木有機農園です。

今日から井戸掘りに山形の中山ボーリングさんが入りました。明日不足部材を入れて、午後からでも掘り始めるようです。いよいよ第一歩を踏み出す事が出来ました。いろんな所へかけ合って、駄目を並べられ、皆で決めた事だからと、だから水を流せないんだと前向きな様子が見えませんでした。

NPO 地球環境・共生ネットからの支援をえて、いろんな試験をします。塩害にどんな品種が強いのか、除塩方法も模索しながら、現場（田圃）で試験します。ヘドロはEM活性液（微生物）などで分解しミネラル分等の養分に・・・。



ボーリングマシーン

○平成 23 年 5 月 16 日 揚水 EM活性液 代掻き

こんばんわ 鈴木有機農園です。

午後 2 時過ぎに井戸から水を汲み上げました。やっと第一歩を踏み出しました。EM活性液を 18 a に 200L 流し込み代掻きをしました。農園のブログを見て、3 社のテレビ局から取材が有りました。7 時過ぎから代掻きでしたが、代掻きの作業を粘りに粘り暗闇の中、撮影していきました。

まだ濁り水ですが結構出ています。これならうまくいきそうです。



井戸からの水

○平成 23 年 6 月 12 日 水稻生育状況

こんばんわ 鈴木有機農園です。

今日は晴天に恵まれ、稲も一回り大きくなったようです。

500mL のペットボトル大になりました。これから茎数が何本まで増えてくれるのか楽しみです。株当たり、20 数本になれば平年並みに収量が上がります。



小林世話人と試験圃場の看板

○平成 23 年 6 月 26 日 EM活性液散布

こんばんわ 鈴木有機農園です。

今日は一日雨降りでした。今朝、小降りのうちに、徹さんから借りた動噴でEM活性液を 32 a の田圃に、10 a 当たり 180L の割合で散布しました。ホースが短く 100m の田圃に半分しか散布出来ませんでした。両側から散布して帳尻を合わせました。EM活性液まみれになり、私の身体も浄化したようです。



5 月 24 日植え付けた「ササニシキ」

○平成 23 年 7 月 4 日 有効微生物の活用

こんばんわ 鈴木有機農園です。

20 年前にEMと出会わなかったら、今の農業も有りえ無かったし、ヘドロの処理法も知りえなかったので、今回の津波対策もできなかったと思います。塩害の除去に津波当初、5 年と言われていましたが、瓦礫等が入らなければ、私は 1 年で、ヘドロは宝物に置き換えて、稲作が出来ると言いきって、微生物による農法がこの生育状況です。

微生物の活用を何よりも優先させないと、遅れをとる事になるようです。



動力噴霧器

○平成 23 年 8 月 10 日 EM開発者・比嘉照夫氏来宅決定 出穂

こんばんわ 鈴木有機農園です。

19 日にEMの比嘉照夫教授が試験圃場を見に来ます。U-ネットとの共同試験ですので来宅は当然と言えば当然です。やっと取れた日程の中で、私が係わってきた石巻・名取



EM農法による生育状況

の方も見たいと言ってるようです。20日午前中位まで私も同行します。「放射能の情報収集ができたらいいなあ〜」なんて考えています。ヘドロ・塩害は見通しが付きましたので・・・。

5月24日に植えたササニシキです。花も咲いています。異常が見られません。夕方、水をかけています。夜温を低くして、稲が寝苦しくないようにとの配慮から午後8時の今もポンプで井戸水を掛けています。多分、意を汲みとって丸々と太った稲穂を付けてくれるはずですが。作物への思いやりが農業の基本です。



ササニシキの出穂

○平成23年9月10日 EM生活の増刊号 井戸の利用法

こんばんわ 鈴木有機農園です。

9月末に発行されるEM生活の増刊号に載せる稲の写真を撮りました。

誰がこのような稲を想像したのでしょうか。こんな写真を数枚撮りました。増刊号の内容は、電話でのお話でしたので、詳しくは判りませんが、9月末に発行予定のようです。



こうべを垂れた稲

井戸を利用して冬水田圃で自然環境と微生物農法を確立してはどうかと、EMの比嘉教授から提案が有りました。冬場に田圃に水を張って

土壌分解を促進させる農法です。宮城県北部の田尻町等で実施されてるようです。冬水田圃も勉強してみたいと思います。放射能と並行した現場主義で試験をしてみますか・・・「なにか目標があれば、楽しめますから」

○平成23年9月21日 台風

こんばんわ 鈴木有機農園です。

台風15号が暴れています。七北田川の堤防が決壊しました。津波で決壊した所を土嚢で積んだ所のように。設計者の想定を超えたのでしょうか。今、洪水になっている所は、津波で流されたり、残ってても住めない住宅です。そんな中、応急補修して住んでる方が数戸あり心配です。

我家の稲も水浸しになってしまいました。



海岸から2km区域



浸水した「ささにしき」(午後4時)



午前の浸水状態

○平成23年9月23日 頑張った稲穂

こんばんわ 鈴木有機農園です。

10時頃になって、水が引き始めました。排水路の水口を取りはらったり、ゴミが被った所を払ったり

で午前中費やしました。

七北田川の堤防が決壊したため、下流からと、上流からと水が増えて、首まで水に漬かりましたが、流れが無かったのが幸いして、倒れませんでした。台風災害も最小限でした。私にとっては好運と言うほかありません。

○平成 23 年 9 月 29 日 稲刈り 2 日目

こんばんわ 鈴木有機農園です。

津波による塩害・ヘドロ試験結果を後世に、もし同じ災害の時に役立つなら、来春から稲を栽培する方に少しでも役立ちたい、駄目もとで批判も顧みず、ヘドロを微生物で分解して宝物にできる事を現場で示したい一心で始めました。想いをブログに載せたところ、想像を絶する反応で、各方面から試験の依頼、資材の提供、激励や支援を頂き、井戸ま

で掘る事が出来ました。私にとっては毎年やっている事の延長のような事で・・・不思議でもあります。支援いただいた皆さんに感謝・感謝あるのみです。

○平成 23 年 10 月 1 日 河北新報の記事

こんばんわ 鈴木有機農園です。

田植えするまでは何が何でも、水を流して貰うのに奔走し、捨てるようになるかもしれない種まき、折衝に折衝で、当てにできない事へのあきらめが、燃えたのかも知れません。捨てる神も有れば、拾う神もある事を行動を通して得る事が出来ました。NPO地球環境・共生ネットワークからヘドロを宝物にする農法を理解され、井戸を掘って水の確保に協力頂きました。てんつくマンの情熱も燃えた火に油を注ぐバックアップになりました。各種 試験の協力、資材の提供に支えられ、日本晴れを植えていった関東関西のボランティアの方々が、稲の生育、堤防に復興を願って播いて行ったひまわりを見に来たり、手伝いたいと言って来る情熱と意欲に後押しされました。大震災がなかったら会う事が無かったであろう人々に支えられ、米の収穫以上に、人と人との絆、真心の収穫を得ました。お陰でほんの少し頑固になったかな～??



水が引いた田圃



見事でしょう。この稲穂



全国支援者・期待の稲穂



提供：河北新報
(平成 23 年 10 月 1 日掲載)